

高校 (F)

俳句二

草の葉をおつる(流)よりとぶ蛭か(可)な(那)

加藤 達成 監修

西城 研書

草の葉をおつる
よりとぶ蛭か
な

〇〇か

草の葉から落ちたと思ったら、そのまま蛭は宙に飛び上がったことだ。

一般社団法人 全国書写書道教育振興会